

令和3年度 加賀看護学校 学校評価結果

学校評価は、学内評価委員および学校関係者評価委員による「学校評価」と学生による「授業評価」を実施しています。

1. 学校評価

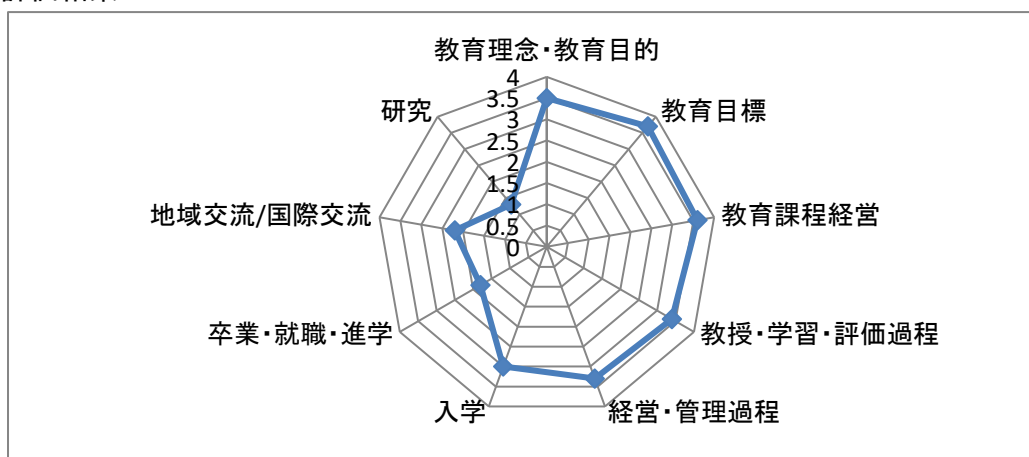
1) 評価内容

I	教育理念・教育目的	5項目
II	教育目標	5項目
III	教育課程経営	15項目
IV	教授・学習・評価過程	12項目
V	経営・管理過程	14項目
VI	入学	2項目
VII	卒業・就職・進学	4項目
VIII	地域交流/国際交流	7項目
IX	研究	3項目
	計	67項目

2) 評価の基準

4 当てはまる 3 やや当てはまる 2 やや当てはまらない 1 当てはまらない

3) 評価結果



4) カテゴリーごとの評価の概要

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
I 教育理念・教育目的	3.5	❖学校の教育理念・目的・目標は、学生便覧、シラバス、実習要項、学校案内に記載している。学生には入学時のガイダンスで周知しているが、入学後、学習過程における指針として教育理念・目的を意識化する機会がないため、学内掲示など意識啓発を図る。	❖教育理念・目的は、整合性のあるものとなっている。
II 教育目標	3.7	❖教育目標は、教育理念・目的と一貫性があり、教育内容を網羅したものとなっている。 ❖卒業後の継続教育の考え方を明確に示していないため、見直しを行う。	❖教育目標は、教育理念・目的と一貫性があり教育内容を網羅しているものとなっている。
III 教育課程経営	3.6	❖教育課程は教育理念・目的・目標から考えられており、学科進度・科目・単元の考え方もシラバスに明文化されている。 ❖令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症に伴う出席停止や臨地実習受け入れ中止があった。そのようななかでも、講義については遠隔授業を取り入れることで計画通りにカリキュラムを遂行し、臨地実習においては実習施設の協力を得て最大限に臨場感のある場面の再現性を担保しながら学内で展開した。 ❖教育課程評価の体系においては、学生による授業評価を実施し、それぞれの講師に結果を還元し効果的な教授方略を検討するよう依頼している。 ❖教員の科目分担は偏りなく配分されているが、近年は個別の学生対応が求められることが多く、授業準備に十分な時間がとれていない。しかし、オンラインでの学会や研修会への参加率は高くなり、自己研鑽する機会は増加している。今後は授業研究を再開し相互研鑽の機会も増やしていく必要がある。	❖学習面だけでなくメンタル面や家庭背景に問題を抱える学生への対応が増え、授業準備に十分な時間が取りづらい状況の中、授業の充実に取り組んでいることは評価できる。 ❖学会参加などによりさらに自己研鑽に努めて頂きたい。

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
		<p>❖臨地実習については、定期的に実習指導者会議を開催し、実習施設との十分な調整ができています。今年度より新たな病院が実習施設となったが、打ち合わせを重ね実習指導体制を構築することができた。臨地実習中の事故は積極的にヒヤリハットレポートをまとめている。事例は安全委員会が分析し、学生への周知もできており、安全教育、安全対策ができています。今後は、ケアの対象者の権利の尊重について、実践の場で考えられるよう、指導計画のなかに含めていく。</p> <p>❖ケアの対象者の権利の尊重について明文化されたものがないため、今後整備していく必要がある。</p>	
IV 教授・学習・ 評価過程	3.4	<p>❖教育内容は、教育理念・目的・目標と一貫性をもち、科目目標・単元目標、科目間の関連性、評価方法はシラバスに明示している。シラバスは、学生の学習への動機づけとなっている。</p> <p>❖授業の展開では、シラバスに沿い学生の学習が進化するよう授業内容に応じて授業方法を選択している。今年度はコロナ禍における措置として遠隔授業を取り入れたことで、計画通りにカリキュラムを遂行できた。</p> <p>❖専門領域においては、複数の教員が協力して演習に取り組んだり、教員間で学生の学習状況や各科目の教育進捗を確認し合い、学生に効果的な教育・指導を展開している。しかし各科目の目標達成の評価は担当講師に一任しているため、今後はより効果的な評価方法・評価基準について検討していく必要がある。</p> <p>❖今年度授業評価を再開しており各講師に評価結果を還元しているが、具体的な改善に至らない場合があり、特に非常勤講師にどのように啓発していくかが課題である。</p>	<p>❖シラバスの活用に向け、紙媒体ではなくパソコンやスマートフォンでいつでも確認ができる体制構築が課題である。</p>
V 経営・管理 過程	2.9	<p>❖学校長及び事務局長が病院との兼務であるが、職員会議等で管理者の考えを確認しながら連携して学校運営にあたっている。組織体制は学則等に明示されており、職務分掌に沿って各々の役割を果たしている。</p> <p>❖財政基盤は大部分が市の一般財源となっている。必要な教材は計画どおりに整備し適正な予算執行ができています。今年度は実習室に電気温水器を新設し、学内実習の質の確保につながった。</p> <p>❖次年度のカリキュラム改正に向けICTの整備など必要な予算が確保できている。</p> <p>❖自己点検・自己評価は昨年度から継続して実施できているが、課題が改善できていない点もあり、組織的な取り組みが課題となっている。</p>	<p>❖個別支援を要する学生が増えている中、学生がクラス担当だけでなく誰にでも相談し支援を受けられる体制であることは評価できる。継続して頂きたい。</p>
VI 入学	3	<p>❖2年目のコロナ禍であり、オンラインでのオープンスクールや個別相談会を開催した。</p> <p>❖受験者数が減少傾向であり、ホームページやパンフレットを改善し、学校の魅力発信に努めていく。</p>	<p>❖入学選抜方法は妥当である。</p>
VII 卒業・就職・ 進学	1.8	<p>❖卒業時の到達度は、看護技術経験状況と看護の統合と実践IVにおけるOSCEで把握している。しかし分析に至っていない。</p> <p>❖国家試験は全員合格し、進学者を除き100%が医療機関に就職した。37%が加賀市内に、44%が県内に就職している。</p> <p>❖卒業生の活動状況の調査及び分析が課題である。</p>	<p>❖卒業生を招いて就職先PRの機会を設けているとのことだが、就職活動に限らず、卒業生が在校生に意見を述べる機会をさらに設けて頂きたい。在校生は卒業生から多くを吸収し、将来的にも役立つことが多いと思われる。</p>
VIII 地域社会・ 国際交流	2.2	<p>❖コロナ禍にあり、2年連続で学校祭が中止になり、地域とのつながりが続いている。しかし、感染状況を考慮しながらボランティア活動を推奨した。新型コロナワクチン接種助に延144名が参加し、地域社会への貢献につながった。</p>	<p>❖同窓会が学校PRの役割の一端を担えるとよい。</p> <p>❖コロナ禍で修学旅行を地域探索に置き換えた高校があったように、学校祭以外で地域と関わるような取り組みをしてはどうか。</p>
IX 研究	1.3	<p>❖学会に参加し研究発表に触れる機会となっているが、研究活動には取り組めていない。</p>	<p>❖学会に参加し研究発表に触れることを導入とし、研究活動に繋げていけるとよい。</p>

2. 授業評価

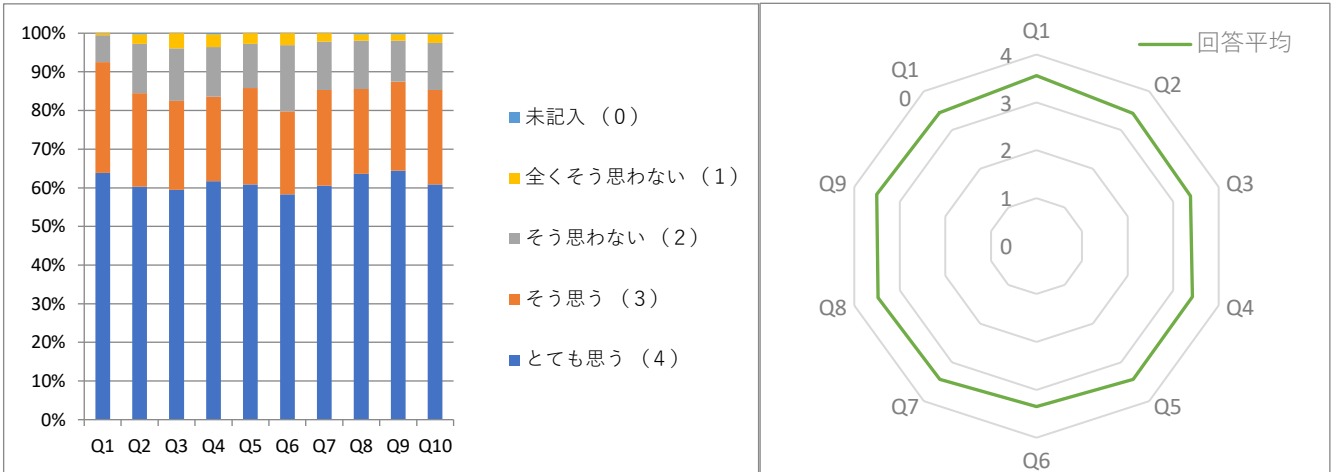
1) 授業

(1) 評価内容

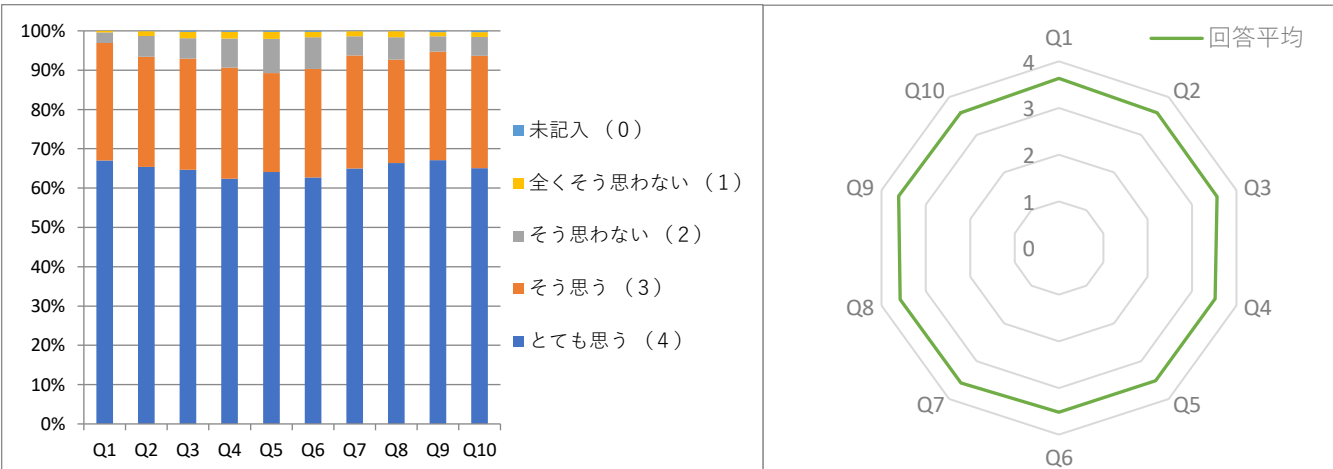
- | | |
|-----------------------|---|
| Q1 この講義に意欲的に参加した | Q6 教員は学生の興味を引き出すような工夫をしていた |
| Q2 学習目標や講義計画が明確であった | Q7 学生が質問しやすく答えも丁寧であった |
| Q3 時間や内容の配分が良かった | Q8 教材教具(テキスト、板書、プリント、パワーポイント、動画、模型など)の使い方は効果的であった |
| Q4 教員の説明は具体的で分かりやすかった | Q9 この講義を受けて知識が深まった |
| Q5 教員の話し方は聞き取りやすかった | Q10 この講義は興味・関心が深まる内容だった |

(2) 評価結果

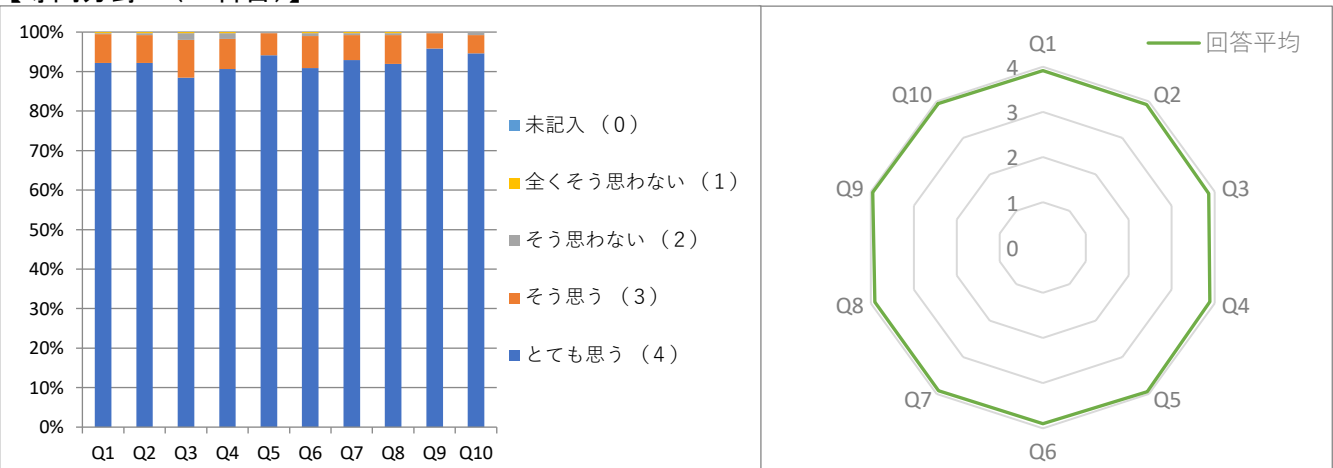
【基礎分野(13科目)】



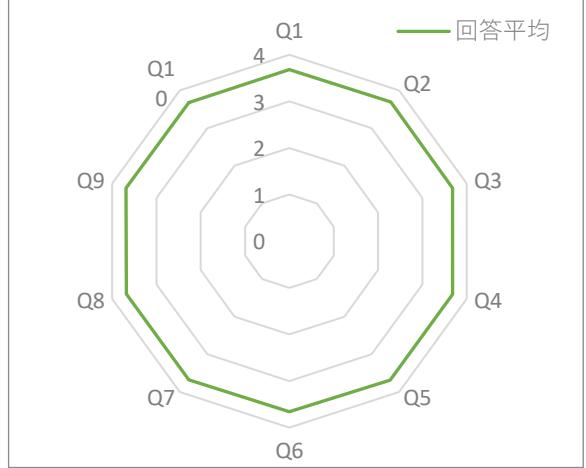
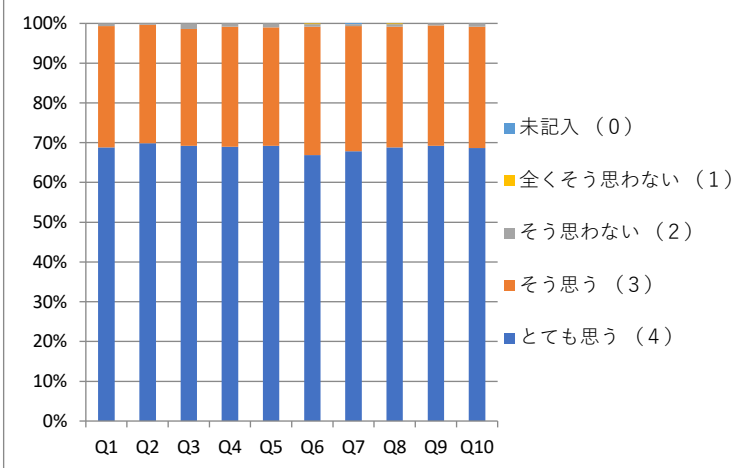
【専門基礎分野(21科目)】



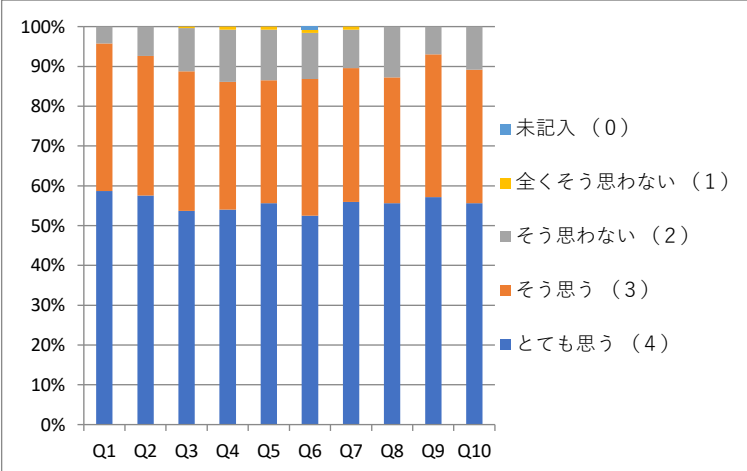
【専門分野 I (12科目)】



【専門分野Ⅱ(22科目)】



【統合分野(8科目)】



2) 臨地実習

(1) 評価内容

- Q1 課題を持ち、目標が達成できるよう努力した
- Q2 グループの一人として協力して取組んだ
- Q3 実習目標を達成するうえで必要な体験ができた
- Q4 事前オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った
- Q5 病棟・施設オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った
- Q6 行動計画について、教員から適切な助言・指導が得られた
- Q7 カンファレンス/ミーティングでは、教員から適切な助言・指導が得られた
- Q8 記録指導では、教員から適切な助言・指導が得られた
- Q9 教員は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた
- Q10 教員は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた
- Q11 教員は学生の実習が円滑に進むように、適宜調整していた

- Q12 教員と指導者間で指導の方向性がずれないように連携が取れていた
- Q13 行動計画について、指導者から適切な助言・指導が得られた
- Q14 援助場面では、指導者から適切な助言・指導が得られた
- Q15 カンファレンス/ミーティングでは、指導者から適切な助言・指導が得られた
- Q16 指導者は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた
- Q17 指導者は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた
- Q18 指導者は看護者としてのモデルになっていた
- Q19 指導者は学生の実習が円滑に進むように、適宜調整していた
- Q20 学生のための場所(記録する場所、カンファレンスの場所、私物置き場、休憩室など)は確保されていた
- Q21 実習施設・病棟は学生を受け入れてくれる雰囲気だった
- Q22 全体として充実した実習だった

(2) 評価結果

【臨地実習(11科目)】

